

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> X(旧Twitter): @sairingi

第53回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

開催日：2025年12月7日(日)

開催場所：ソニックシティ

テーマ：Hop Step Jump

サブテーマ：～ 飛躍する未来に向けて、今学ぼう～



～ 飛躍する未来に向けて、今学ぼう～

【学術部より：発表方法・スライド作成について】

■発表方法について

- 発表はパソコンを使用したスライド投影による口演形式で行います。
- 一般演題の発表時間は、1演題につき【発表6分・質疑応答3分】の計9分です。
- コマーシャル演題は、発表および質疑応答を合わせて15分以内とします。

■発表スライドについて

発表はパソコンによる口演形式で行います。以下の注意事項に従い、スライドを作成・送付してください。なお、送付方法については、10月号の「埼臨技だより」にて詳細をお知らせいたします。

1. スライド作成の基本仕様

- OS：Microsoft Windows 10または11
- アプリケーション：Microsoft PowerPoint 2019または2021
※ Mac OSは使用不可
- スライドサイズ：「ワイド画面16:9」に設定（設定方法：「デザイン」→「スライドのサイズ」→「ワイド画面 16:9」）

2. 動画使用について

- 使用可能形式：Windows Media Playerで再生可能な形式（MPEG-1、MPEG-2、MPEG-4/AVC（H.264）、DivX、WMV）
- 特殊なコーデックや音声付き動画は使用不可
- 解像度は720×480ピクセル程度。デジタルハイビジョンやフルハイビジョンは避けてください。
- 動画再生に不安がある場合は、複数形式での準備を推奨します。

3. 図表作成の注意点

- 遠くからでも読みやすい、簡潔な図表を作成してください。
- 強調したい箇所は、色や囲みなどで目立たせる工夫をしてください。
- X軸・Y軸の名称・単位を必ず記載してください。

4. フォントの選定

- 特殊フォントは使用せず、Windows標準搭載フォント (MSゴシック、メイリオ等) を推奨します。

■利益相反 (COI) の開示について

埼玉県医学検査学会では、利益相反 (COI) の開示を義務づけています。

確認方法

詳細な開示基準は、JAMTの会員専用サイト内「利益相反」ページをご参照ください。

スライドへの記載方法

スライド1枚目の最下部に、以下のいずれかを記載してください。

- 利益相反の有無：無

※この演題の発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません。

- 利益相反の有無：有

※この演題の発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業名 (例：〇〇〇〇株式会社、(株)□□□□)

【記載例】

〇〇〇の検討について

△△病院 臨床検査部

埼玉 県一

利益相反の有無：無

※この演題の発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません。

■発表用スライドデータの送付方法

送付形式

- PowerPoint形式のスライドデータをE-mailで送付
- 容量が大きく添付できない場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

送付方法

- 1演題につき、メール1通で送付してください。
- 件名は「演題番号 - 氏名」(例：生1 - 埼玉太郎) としてください。
- 本文は空白のまま構いません。
- 添付ファイル名は、件名と同じにしてください。
- 送付いただいたデータは、学会終了後に責任をもって消去いたします。

送付期限

令和7年10月31日 (金) ~ 11月14日 (金) 必着

- 複数回の送信による差し替えはできませんのでご注意ください。
- データ受付後、1週間以内に確認メールを送信します。確認がない場合は下記までご連絡ください。

送付先・お問い合わせ先

埼玉県医学検査学会 学術部 高橋 俊 (国際医療専門学校)

E-mail : s-takahashi@imc.ac.jp TEL : 048-866-6600

■初めて学会発表される方へ～実行委員会よりエール～

第53回埼玉県医学検査学会のテーマは「Hop Step Jump」、サブテーマは「飛躍する未来に向けて、今学ぼう」です。この言葉のとおり、学会での発表は、学びの“ステップ”から実践の“ジャンプ”へと進む、大きな飛躍のチャンスです。初めての発表には、緊張や不安がつきものです。しかし、準備を重ねたその一歩が、確かな成長となり、次のステージへの扉を開いてくれます。あなたの言葉や視点が、誰かの気づきとなり、臨床現場の力になるかもしれません。スライドが完成したら、ぜひ読み上げ原稿を作成し、声に出して練習してみてください。職場の先輩や同僚の前での予演会は、時間配分の確認だけでなく、質問への対応力を高め、自信にもつながります。想定問答を準備しておけば、より安心して本番に臨めるはずです。発表とは、知識や技術を共有するだけでなく、自分自身と向き合い、未来へ踏み出すための舞台です。今の自分を信じ、失敗を恐れず、一歩ずつ挑戦を重ねてください。

私たち実行委員会は、すべての発表者の勇気と努力に、心から敬意を表し、全力で応援しています。ともに埼玉の臨床検査を、そしてその未来を、もっと熱く盛り上げていきましょう！

(文責：第53回埼玉県医学検査学会 学術部長 高橋俊)

【運営部長に就任しました】

第53回埼玉県医学検査学会の運営部長を務めさせていただきます、日本医療科学大学の島村明花です。

本学会では「Hop Step Jump」をテーマに掲げ、基礎から応用、そして未来へつながる多彩な企画をご用意しています。臨床現場に直結する学びを共有する場として、近年注目されている最新トピックも取り上げる予定です。

参加者の皆さまには、新たな一歩を踏み出していただけるよう、医療DX、AIの動向、音楽によるヒーリングなど、幅広い分野の話題を盛り込んだ内容をお届けします。検査の未来を多角的に探求し、学び、驚き、癒しを提供する充実した学会を目指しています。

ぜひご参加いただき、共に新たなステージを切り開いていきましょう！皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

(文責：第53回埼玉県医学検査学会 運営部長 島村明花)



【運営部を担当して】

第53回埼玉県医学検査学会実行委員会の一員として、運営部を担当しております、壮幸会行田総合病院の曾我洗斗と申します。

私は運営部として、ランチョンセミナー用のお弁当選定や見積もり、資料作成を担当しております。昨今の物価高の影響もあり、お弁当の選定は難航しておりますが、講演内容とともに皆様にご満足いただけるランチョンセミナーの実現を目標に尽力しております。今後、運営部の業務は一層増えることとなりますが、学会当日の円滑な進行を図るために、備品・物品の準備や案内表示の作成を進めております。

私自身、まだ経験不足な部分もございますが、実行委員の皆様からのご指導を仰ぎつつ、学会当日まで全力で取り組む所存です。学会テーマ「Hop Step Jump ～飛躍する未来に向けて、今学ぼう～」の趣旨に沿い、参加者の皆様が多くを学び、今後のご活躍につながる学会を目指して準備を進めております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

(文責：第53回埼玉県医学検査学会 運営部 曾我洗斗)

令和7年度理事研究班合同会議 兼 第1回研究班運営委員会

令和7年7月8日(火)において、令和7年度理事研究班合同会議兼第1回研究班運営委員会を埼玉県総合医局機構地域医療教育センター8階研修室にて開催した。会議冒頭松岡会長・久保田学術部長のご挨拶後、次第に沿って進行した。

研究班運営マニュアル・フォルダの見直しを行い、改訂内容について説明・提案・審議を実施し、特に問題なく終了した。改訂内容については、理事会へ承認事項として上程することとした。また、今後は、本会議の定期開催(7月第1週火曜日、10月第1週火曜日)を提案し、承認を得られた。ただし、本年度第2回研究班運営委員会は、10月第1週火曜日が会場を予約できなかったため、10月6日(月)とすることとした。



猪浦副会長からは、支部研修会運営手順について、長谷川理事からは事業部会務における研究班への協力要請について、それぞれ話があった。その後、班長と生涯教育・会計・ホームページに分かれディスカッションを実施し、日頃の疑問点、会務についての意見等、活発な討議がなされ、貴重な機会となった。

最後に山口副会長からのご挨拶後閉会となった。お忙しい中、また酷暑の中、多くの皆様にご参集いただき感謝申し上げます。閉会后、第53回埼玉県医学検査学会より、協力要請の話があったことも併せて報告する。

(文責：長岡勇吾)



研究班研修会報告

テーマ 食品媒介による寄生虫症と検査法の要点 ～ 日々の検査から試験対策まで ～

主催 公衆衛生検査研究班

実施日時：2025年5月30日 19時00分～20時30分

会場：ソニックシティビル 604会議室 教科・点数：専門教科ー20点

講師：山本 徳栄 (国立感染症研究所 寄生動物部 客員研究員)

参加人数：会員38名

出席した研究班班員：吉田翔平 菊地孝司 坂田竜二 佐藤和 鈴木由美子

研修内容の概要・感想など

今回の研修会は『食品媒介による寄生虫症と検査法の要点～日々の検査から試験対策まで～』をテーマに、山本徳栄氏を講師に現地にて開催した。

ヒトが食品を媒介してどのように寄生虫に感染していくのか、長年の研究や経験談を交え幅広い観点から話しがあった。多くの症例から、いくつか抜粋して紹介する。

2010年、ヒラメの刺身を喫食した534名中113名が一過性の嘔吐や下痢を示した。原因は、ヒラメの1g筋肉中にナナホシクダアの胞子が 10×10^7 が含まれる刺身を生食したため、ヒラメ

からはクドアがみつき、患者の吐瀉物からはクドアのDNAが検出された。体外に排出すれば速やかに回復するが、予防として凍結処理を施された魚を食べることが、大事である。

埼玉県でのエキノコックスの調査については、エキノコックスといえば北海道（キツネ）と発想するが、2005年に埼玉県で犬の糞便からエキノコックス（北海道由来）の虫卵が発見されたことがある。以降の継続的な調査により埼玉県にエキノコックスの定着はないとされているが、ペットの放し飼いをしないことが予防となる。また、ペット同伴での旅行は、本県へ寄生虫が侵入するリスクがあることに注意し、行動する必要がある。

1996年、埼玉県越生町で起きたクリプトスポリジウムによる集団感染については、人口13,809人中、8,812名に集団下痢・腹痛が発生し、国内初の水道を介した集団感染となった。原因は、浄水処理に使用する無機凝集剤（PAC）を、①濁度が上昇した際のみ添加していたこと②夜中の豪雨により濁度が上昇したが、対応が不十分であったことによる不適切な洗浄処理である。これにより、クリプトスポリジウム原虫が、水道水に混入し、集団感染の発端となった。また、下水処理場の設置場所にも問題があり、患者便に含まれる大量のオーシストが下水処理場から水道原水に流入したことで被害が拡大した。水試料中のクリプトスポリジウムの検査は、当時、公定法がなく文献や身近な器具を活用し検査法が確立された。

検査法については、①遺伝子検査を行う際は、DNAを断片化するので検体をホルマリン固定してはならない②MGL法やショ糖浮遊法を行う際は、糞便はホルマリン液の代わりに生理食塩水で溶解した後、通常の手技で実施し、鏡検時のコツは、10倍から対物レンズの倍率をあげて行き、コンデンサーは下げ、開口絞りは絞って観察すると良いと説明があった。

二級試験対策は、いくつかの例題について紹介があった。寄生虫名の誤字は減点されるので正確に覚える必要があり、寄生虫名と疾患名を混同しないよう気を付けなければならない。

今回、食品媒介による寄生虫症の症例では、その原因の聞き取り調査や検査法の確立に至るまでの日々研鑽を積まれた経験まで盛り込まれ、大変興味深い内容の研修会であった。今後も公衆衛生検査ならではの研修会を開催していきたい。

（文責：鈴木由美子）

テーマ 尿沈渣検査を始める前に① ～ 血球類とその他の成分（結晶など）～

主催 一般検査研究班

実施日時：2025年6月18日 19時00分～20時00分

会場：Web開催 教科・点数：基礎教科ー20点

講演 1：血球類の鑑別ポイント

講師 1：松本 実華（自治医科大学附属さいたま医療センター）

講演 2：その他の成分（結晶など）の鑑別ポイント

講師 2：渡邊 裕樹（埼玉医科大学総合医療センター）

参加人数：会員160名 賛助会員6名

出席した研究班班員：藤村和夫 柿沼智史 渡邊裕樹 小針奈穂美 松本実華 織田喜子
林達也 福島明音

研修内容の概要・感想など

今回の一般検査研究班研修会は「尿沈渣検査を始める前に①～血球類とその他の成分（結晶など）～」について、松本氏・渡邊氏を講師にWebにて開催した。

講演1では松本氏より、「血球類の鑑別ポイント」について、尿沈渣検査の目的をはじめ、尿沈渣標本作製・観察、赤血球編、白血球編の順に講演がなされた。

尿沈渣作製時において沈渣量が血尿や濃尿、その他成分により0.2mLを超える場合があり、各層にどのような細胞が出現するかを理解することが重要であった。特に見落としてはならない異型細胞は、中～下層で集塊状に出現する解説がされた。

赤血球編では、まず、血尿についての説明があった。血尿は肉眼的血尿（尿1L中に血液1mL

以上で目視において判断可能)と顕微鏡血尿(尿沈渣に5個/HPF以上もしくは、無遠心尿で20個/ μ L以上で目視において判断不可能)に分けられる。血尿を呈する疾患は様々あり、尿沈渣による赤血球形態を観察することで出血部位を推定することが可能で、非糸球体型赤血球と糸球体型赤血球に分類できる。赤血球形態における注目ポイントとして①内側の膜の均一さ不均一さ、②大きさの大小不同、③背景の赤血球形態が均一か多彩か、④ヘモグロビンの状態についてそれぞれ細かく解説された。

白血球編では、尿沈渣中に白血球が5個/HPF以上・無遠心尿で10個/ μ L以上が有意な白血球尿(膿尿)とされ、白血球尿をきたす病態は様々ある。白血球(好中球)は細胞の生死や尿の性状により様々な形態を示すことがある。また、白血球(好中球)はS染色でより濃染細胞、淡染細胞および輝細胞に分類することができ、講師の松本氏による細胞質内顆粒がブラウン運動をしている好中球(輝細胞)を実際の動画を用いて解説された。

講演2では渡邊氏より、尿の混濁は白血球尿だけではなく塩類・結晶によっても混濁を示すことがある。混濁尿を顕微鏡で観察してみると塩類が大量に出現している影響で背景に隠れている各種細胞の鏡検が困難なケースに遭遇することがある。その際には0.4%EDTA加生理食塩水を尿沈渣に10mL加えてよく混和し再度遠心して沈渣を鏡検する方法の紹介があった。

尿路結石症の診療ガイドラインにおいて、随時尿検査(PH、尿沈渣)が診断に非常に重要であり、鏡検における結晶成分を正確に判断することが求められているため、通常結晶・異常結晶に分けて細かく解説された。

その他成分では、ヘモジデリン顆粒の証明においてのベルリンブルー染色方法として図を提示しながらの解説で、大変参考になった。

最後に、今回の研修会の復習と緊急検査試験対策として、11問のスライド問題を渡邊氏が解説しながら行われ、研修会で学んだ内容をアウトプットできより理解が深まったと考えられた。

今回は尿沈渣を始める前に①をテーマにし、細胞形態の見方・各成分の臨床的意義も加えての解説で日常業務に役立つ内容であり、大変参考になる内容であった。

(文責：福島明音)

テーマ TDMの基礎

主催 血清検査研究班

実施日時：2025年6月18日 18時30分～19時15分

会場：Web開催 教科・点数：基礎教科ー20点

講師：岡本 文枝(シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社)

参加人数：会員36名

出席した研究班班員：渡邊剛 山本晃司 岡倉勇太 飯山恵 森圭介 吉田萌香 深田愛

研修内容の概要・感想など

今回の研修会では「TDMの基礎」と題し、血中薬物濃度測定の目的、測定上の留意点や精度管理など運用に至るまでの幅広い内容であった。

TDM(Therapeutic Drug Monitoring)とは、「薬物血中濃度モニタリング」を表す。薬剤投与後の薬効性には個人差があり、同じ用量であっても血液中の薬物濃度は人によって異なることが分かっている。それらには、体内動態の個人差が大きく影響する。また、治療血中濃度範囲が狭い薬剤においては、ときに重篤な副作用をもたらすことがあるので注意が必要である。

TDMが推奨される薬剤として、有効血中濃度域が狭いものや半減期が短く血中濃度が大きく変動する薬剤などが有用とされる。ジゴキシン(強心配糖体制剤)、テオフィリン(気管支拡張剤)、バルプロ酸ナトリウム(抗てんかん薬)、バンコマイシン(抗生物質)などが挙げられる。これらの薬剤においては、薬物の性質、投与量や血中薬物濃度の管理が異なり、患者毎に管理が必要となる。薬物血中濃度の測定では、トラフ値やピーク値を用いて薬効や副作用の評価を行うが、採血のタイミングにより値が変動する。そのため、サンプリングのタイミングについ

ては留意する必要がある。また、患者が正しく服薬を守っていない場合にも値が変動するため、本来の値が得られない。測定上の問題点として、検査結果が通常より高く出る、または低く出る場合が想定される。その際には、管理血清や検量線再作成での確認が有効な場合がある。また、併用薬の影響を受けることもあり、カルテで服薬状況を確認することも必要である。特に抗てんかん薬などでは、併用薬による相互作用を示すものがあり、各薬剤の添付文書の確認および各学会の出しているガイドラインを参照されたい。

TDMが推奨される特定の薬剤においては、2024年度の診療報酬改定により特定薬剤管理料が特定のケースでは治療に応じて加算できるようになった。薬剤の適正使用は、患者のみならず医療機関においても有益である。TDMにおける評価には、採血から解析までの一連の業務を担う、臨床検査技師の需要が高い分野であると考えられる。さらに、正しく評価するためには、今回の研修会の内容にあった薬剤に関する知見を得ることも大切である。

(文責：山本晃司)

テーマ 苦手意識をなくそう！ 血液ガス検査の基本

主催 生理検査・臨床化学検査研究班合同

実施日時：2025年6月19日 19時00分～20時00分

会場：Web開催 教科・点数：基礎教科-20点

講師：平尾 優太 (ラジオメーター株式会社)

参加人数：会員147名 賛助会員1名

出席した研究班班員：

(生理機能検査研究班) 南雲涼太 新井雅人 松平悠 島内一輝 草間冬子

(臨床化学検査研究班) 北川裕太郎 永井謙一 田中満里奈 河野邊和弘 関根梢恵

研修内容の概要・感想など

今回、生理機能検査研究班・臨床化学検査研究班の合同研修会として「苦手意識をなくそう！血液ガス検査の基本」をテーマに平尾氏を講師に開催した。

講演では、まず血液ガスの臨床的意義から始まり、 $p\text{CO}_2$ 、 $p\text{O}_2$ など血液ガスの代表的な検査項目の解説を交えながら換気や酸塩基平衡など呼吸生理に関する事項まで幅広く解説された。人体の pH は7.4と一定に保たれている。その理由として人体では pH 変動に対し炭酸-重炭酸系などの様々な緩衝作用が働くからであると解説されていた。この炭酸-重炭酸系緩衝作用の理解が血液ガス検査を理解するうえで最も重要であるが、その仕組みは複雑で難解なところが多く、血液ガスに苦手意識をもつ大きな理由の1つであると思う。今回の講演では図などを交えながら、それらのことがわかりやすく解説され入門編にふさわしい内容であった。また、後半にはTic-Tac-Toe法を用いた簡単な血液ガス検査のデータの読み方を実際の数値を用いた演習形式で学習し、検体の取り扱い方の解説もあり今すぐにでもルーチンで応用できそうな内容であった。

血液ガス検査に苦手意識をもつ技師は多く、研修会の需要は高いと思われる。しかし、埼玉県で研修会が開かれる頻度は少なく、あっても初心者向けの研修会がないというのが現状である。そんな中、今回の研修会では県外からも多くの参加があり需要の高さを認識することができた。これをきっかけに苦手意識を克服し、少しでも血液ガスに興味を持つ技師が増えることを期待したい。

(文責：新井雅人)

テーマ **血液培養検査の現状と課題**

主催 微生物検査研究班

実施日時：2025年6月19日 19時00分～20時30分

会 場：ソニックシティビル 905会議室 教科・点数：専門教科ー20点

講 演 1：血液培養検査に関する実態調査アンケート報告

講 師 1：渡辺 駿介（深谷赤十字病院）

講 演 2：血液培養のベストプラクティスと精度保証

講 師 2：吉田 武史（日本ベクトン・ディッキンソン株式会社）

参加人数：会員29名 その他6名

出席した研究班班員：酒井利育 今井英美 岸井こずゑ 伊波嵩之 渡辺駿介 大塚聖也
伊吹早紀

研修内容の概要・感想など

今回の研修会は「血液培養検査の現状と課題」をテーマに開催した。講演1では渡辺氏より血液培養検査の概要とアンケートの集計結果について解説・報告があった。

血液培養検査は血流感染症の確定診断や起炎菌の特定、適切な抗菌薬療法の促進など適切な感染症診療に欠かせない検査である。その中でモニタリング指標として血液採取量、複数セット採取率、陽性率、汚染率について、及び微生物検査担当技師が勤務していない時間帯の運用について解説があった。

アンケートは12施設から回答があり、自施設で血液培養検査を実施している11施設の集計結果が報告された。血液培養検査のモニタリングとフィードバックの項目について、血液採取量測定実施施設：37%、複数セット採取率フィードバック施設：90.9%、陽性率フィードバック施設：72.7%、汚染率フィードバック施設：72.7%であった。血液採取量は自動で測定する装置もあるが、その機能を有していない施設では自分たちで重量測定、採取量換算しなければならないため、他の項目に比べ実施率が低くなっていると考えられる。しかし血液量は多くても少なくても陽性率が低下するので研修会を機に測定実施施設が増加していくことを期待したい。検査担当技師が勤務していない時間帯の運用については血液培養ボトルを装置に装填している施設：100%、主治医不在時に血液培養に関する報告を行う仕組みがある施設：72.7%であった。血液培養陽性報告は医師への連絡体制が決まっている施設や、メールまたは電子カルテでの報告のみの施設など対応は様々であった。同じ科の医師または看護師への連絡と回答した施設があったが病院機能評価ではパニック値の報告は医師に限定されており、看護師への報告は指摘事項になるため運用の一考が必要と解説があった。また陽性ボトルの塗抹作成や医師への報告、サブカルチャーを実施している施設も半数を超えており、埼玉県内の血液培養への取り組みに対する意識の高さが伺えた。

講演2では吉田氏より血液培養の精度保証を中心に解説があった。精度保証は検査依頼から検査結果の有効利用までの全工程の総合的精度管理を指し、技師だけでなく医師や看護師も関与している。1,000患者・日（Patient-Days）あたりの血液培養数、陽性率、複数セット率、コンタミ発生率の4つのインジゲーターについて解説があった。

1,000Patient-Daysは、「各年度の全血液培養数÷年間在院患者延数×1,000」から求められ、J-SIPHEでの報告では26.5であった。数値が約45あたりで陽性率がプラトーとなるためこの数字が1つの目標値であると報告された。なお採取減少がうたわれる米国での値が270と桁数が違うことも併せて報告された。続いて陽性率は5-15%が推奨されている。渡辺氏も解説されたが血液培養が適切なタイミングで実施されているかの指標になる他、培養検査に問題ないか汚染率が高くないかなど陽性率についても自施設のデータを確認していただきたい。複数セット率は中央値で93.1%と高水準であること、汚染率は中央値が1.8%でありCLSIではベストプラクティスにおける目標値が1%以下であると報告された。その他重要なデータとして、検体採取から培養開始までの時間が1時間経過するごとに陽性率が0.3%下がるため採取後2時間以内に培養開始すること、培養期間は5日間が推奨されているが感染性心内膜炎（IE）を疑って検査

した血液培養は陰性であってもサブカルチャーすること、一定期間ボトルの血液採取量をモニタリングしフィードバックすることが推奨されている。

また渡辺氏、吉田氏から血流感染マネジメントバンドルについて解説があった。血流感染の診療レベル向上を目的としており、臨床検査技師だけでなく医師や看護師など診療に関わる医療従事者全体に向けて作成されている。アンケートでも知っている施設が半数を下回っていた。検索すれば誰でも閲覧可能であるため一度確認していただき施設全体で活用していただきたい。

最後に血液培養検査でもコミュニケーションが重要である。迅速な陽性報告だけでなく適切なタイミングでの陰性報告や、インジゲーターをただフィードバックするだけでなく数値からどのように対応していくかを臨床と話し合うなどよりよい血液培養検査に繋げていくことが大切である。今回の研修会が施設全体で血液培養検査運用の参考となれば幸いである。

(文責：伊波嵩之)

テーマ 遺伝子検査の基礎と実践について学ぶ

主催 遺伝子染色体検査研究班

実施日時：2025年6月20日 18時30分～19時30分

会場：Web開催 教科・点数：専門教科-20点

講演 1：遺伝子検査（基礎編）

講師 1：折原 悠太（埼玉医科大学病院）

講演 2：PCR検査（実践編）～微生物検査での実践

講師 2：江原 淳子（株式会社 ミロクメディカルラボラトリー）

参加人数：会員58名

出席した研究班班員：折原悠太 小内玲子 石橋佳朋 江原淳子 阿部秀俊 相良真理子

研修内容の概要・感想など

「遺伝子検査の基礎と実践について学ぶ」をテーマに研修会を開催した。

前半30分で折原氏による遺伝子検査の基礎的な講義があった。遺伝子検査の歴史は、1953年にワトソンとクリックによるDNA 2重らせん構造の発見に始まり、遺伝子解析技術の進歩を遂げ、2022年にはヒト全ゲノムの完全解読が発表された。そのような技術を応用した遺伝子検査の種類としては、大きく1) 病原体核酸検査、2) 体細胞遺伝子検査、3) 生殖細胞系列遺伝子検査がある。具体的には、1) コロナやインフルエンザといった病原体の検出、2) がん病変部に発生した遺伝子変異の検出、3) 先天性単一疾患の原因遺伝子の検出、薬剤の効果、副作用の予測がある。これらの検査において重要な精度管理方法に関しては、検査室のエリア分け、精度管理物質の測定、コンタミ防止策の解説があった。2023年6月にゲノム医療推進法が施行され、一人でも多くの患者さんが検査を受けられるようなゲノム医療体制の整備が進められている。検査技術の習得は基より倫理的配慮や社会情勢への関心も重要となっていく。

後半30分では江原氏による微生物分野を中心としたPCR検査の実践的な講義があった。全自動遺伝子検査装置を導入することで従来の塗抹・培養・感受性検査よりも迅速で高感度に、また培養が困難な病原体や薬剤耐性遺伝子の検出も可能となる。汎用性の高い機器が各社から発売されている。抗酸菌遺伝子検査について、コバス5800によるTaqManPCR法の解説があった。TaqManprobeをハイブリダイズした2本鎖DNAがポリメラーゼにより分離する際に発生する蛍光量を定量化している。PCR検査のステップは、①検体採取②核酸抽出③核酸増幅④検出⑤報告であるが、全自動遺伝子検査装置は②～④までを担う。核酸増幅検査は各ステップでコンタミネーションに注意する必要がある。部屋のエリア分けと合わせて、備品や器具もそのエリア専用を用意することだった。推奨器具・備品、エアロゾル対策、核酸廃棄物の処理方法・タイミングに関して具体的な手順を提示いただき、受講者が各施設に還元できる内容だったのではないかと期待する。本研修会の内容が日々の業務の中で参考になれば幸いである。

(文責：相良真理子)

**令和7年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第4回 理事会議事録**

日時：令和7年7月10日(木) 19時00分より

場所：防衛医科大学校病院
所沢市並木3-2 (Web併用)

議題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項
Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出席：(理事)松岡 猪浦 山口 濱本 阿部
西田 三木 網野 伊藤 塚原
神嶋 笛木 長谷川 神戸
小林 工藤 久保田 長岡 原
土田

(監事)島村

欠席：(理事)佐瀬 藤原
(監事)細谷

本日の理事会の出席者は21名であった。理事の出席者は20名で、現在22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、松岡優会長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告

(令和7年6月5日～令和7年7月9日)

6月5日(木)令和7年度第3回理事会：

松岡、猪浦、山口、濱本、阿部、
西田、三木、佐瀬、網野、藤原、
塚原、神嶋、笛木、長谷川、神戸、
小林、工藤、長岡、久保田、原、
土田、遠藤、細谷

6月8日(日)タスクシフト指定講習会(埼玉県035)：猪浦、濱本、小林、藤原、土田、原、佐瀬

6月9日(月)日臨技認定試験会議(Web)：猪浦

6月10日(火)第53回埼玉県医学検査学会実行委員会：伊藤、藤原

6月12日(木)学術部会議：久保田、長岡、原、土田

6月13日(金)令和7年度埼臨技定時会員総会：

松岡、猪浦、山口、濱本、阿部、
西田、三木、佐瀬、網野、伊藤、
藤原、塚原、神嶋、笛木、長谷川、
神戸、小林、工藤、長岡、久保田、
原、土田、遠藤

6月19日(木)埼玉県医師会臨床検査精度管理調査会議(Web)：松岡、猪浦、山口

6月23日(月)令和7年度日臨技関甲信・首都圏支部合同支部内連絡会議(Web)：猪浦、松岡

6月27日(金)第20回深谷市福祉健康まつり実行委員会：笛木

6月28日(土)令和7年度日本臨床衛生検査技師会定時会員総会：猪浦

7月1日(火)令和7年度全国「検査と健康展」会場打ち合わせ：塚原

7月5日(土)茨城県臨床検査技師会創立75周年記念式典：松岡、猪浦

7月6日(日)令和7年度第1回一都八県会長会議：松岡、猪浦

7月8日(火)令和7年度理事研究班合同会議：松岡、猪浦、山口、濱本、阿部、三木、久保田、長岡、原、土田、神戸、小林、工藤

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

1) 6月13日(金)令和7年度定時会員総会が開催された。

2) 6月20日(金)法人登記を法務局へ提出した。

3) 6月30日(月)公益インフォメーションに、令和6年度事業報告、変更届けを提出した。

2 総務部

1) 6月2日(月)令和8年度定時総会会場の予約抽選会へ参加した。(別紙資料1)

2) 6月8日(日)タスクシフト指定講習会(埼玉県035)が開催した。(別紙資料2)

3) 7月15日(火)だより第554号発行予定。

4) 8月17日(日)タスクシフト指定講習会(埼玉県036)を開催予定。：猪浦、神戸、工藤、藤原、西田、長谷川、佐瀬

5) 令和10年度埼玉県医学検査学会会場予定地として、令和10年12月3日開催でソニックシティへ優先予約申請書を提出した。

3 事業部

1) 5月29日(木)第25回わらび健康まつり第1回実行委員会へ参加した。(別紙資料3)

2) 6月2日(月)青年部委員会会議を開催した。(別紙資料4)

3) 6月24日(火)全国「検査と健康展」「リアル体験教室」開催について、埼玉県県民生活部青少年課へ申出書を提出した。(別紙資料5)

4) 6月27日(金)令和7年度リアル体験教室プレミア(プレミア教室)の広報希望について申請を行った。

5) 6月27日(金)第20回深谷市福祉健康まつり第1回実行委員会に参加した。(別紙資料6)

6) 7月1日(火)令和7年度「全国検査と健康展」会場変更について、コルソ担当者へ説明を行った。なお、開催日は11月23日(日)に決定した。(別紙資料7)

7) 深谷健康まつり派遣スタッフについて、北部地区のさらなる技師会活動の活性化を目的に、昨年同様一斉メール・ホームページ・だよりにて一般公募を行う予定。

4 学術部

1) 6月12日(木)学術部会議を開催した。理事研究班合同会議の内容について学術部員の意見を集約した。

2) 6月20日(金)「8月・9月生涯教育研修プログラム」の日臨技システム行事登録作業を完了した。

3) 埼臨技会誌Vol.72 No.1 7月15日に発行予定。

5 精度保証部 特になし

6 会計部

1) 令和7年度正会員費97名485,000円、入金金54名54,000円、再入会金1名1,000円、

- 合計540,000円の入金があった。
- 2) 日臨技より、日臨技生涯教育推進研修会助成金184,000円の入金があった。
計184,000円／4回
 - 3) 石井印刷へ、埼臨技だより第553号Web版7P36,300円を支払った。
 - 4) NECネットエスアイ株式会社へZoomライセンス更新料147,972円を支払った。
 - 7 精度管理委員会 特になし
 - 8 一都八県会長会議
 - 1) 7月6日(日)ホテル・ザ・ウエストヒルズ・水戸で開催された。(別紙資料8)
 - 9 日臨技関甲信支部
 - 1) 6月23日(月)関甲信・首都圏支部内連絡会議(Web)が開催された。(別紙資料9)
 - 10 日臨技 特になし
 - 11 第53回埼玉県医学検査学会
 - 1) 6月10日(火)第8回実行委員会が開催された。(別紙資料10)
 - 12 2026年度日臨技関甲信支部・首都圏支部医学検査学会(第62回)
 - 1) 準備委員会を7月17日(木)開催予定。

III. 承認事項

1 事務局

- 1) 会員動向(令和7年度分)
令和7年7月1日現在
会員数 3,697名[令和6年度会員数3,612名]
(新入会員197名)
賛助会員 66社[令和6年度72社]
承認された。

2 総務部

- 1) 埼臨技HPリニューアルについて
(別紙資料11)
上記の件について、濱本隆明HP委員長

より発言があり、審議の結果、承認された。

3 事業部 特になし

4 学術部

- 1) 埼臨技会誌投稿時に必要な誓約書・同意書(様式2)の修正について(別紙資料12)
上記の件について、久保田亮学術部長より発言があり、審議の結果、承認された。

5 精度保証部 特になし

6 会計部 特になし

7 精度管理委員会 特になし

8 第53回埼玉県医学検査学会

- 1) 青年部企画の講師として、賛助会員企業の臨床検査技師に依頼したい。
上記の件について、伊藤隆史学会担当理事より発言があり、審議の結果、承認された。

9 2026年度日臨技関甲信支部・首都圏支部医学検査学会(第62回)

- 1) 実行委員の選任について(別紙資料13)
上記の件について、松岡優学会長より発言があり、審議の結果、承認された。

IV. 議題

1 事務局 特になし

2 総務部 特になし

3 事業部 特になし

4 学術部 特になし

5 精度保証部 特になし

6 会計部 特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

あ と が き

私が指導している大学院生がEUROMEDLAB2025という国際学会でポスター発表を行うため、5月にベルギーのブリュッセルに行ってきました。ベルギーはフランスとドイツに挟まれた小さな国で、EUの主要機関が多く置かれている国です。EUROMEDLABは、日本でいうと以前の臨床検査自動化学会のような学会です。ポスター発表は、指定の時間にポスターの前に立っているのではなく、大型モニターがたくさん並んでおり、そこでタッチパネルを用いて見たいポスターを写すという今までに経験のない方式でした。

学会以外に展示会もありました。そこではヨーロッパの臨床検査用自動分析装置が数多く展示されており、日本にはないメーカーの装置も展示されているため、とても勉強になりました。

目的は学会でしたが、空いた時間には観光も行い、ブリュッセルの街並みも見してきました。ベルギーで有名なものはチョコレートとベルギービールが思いつくかと思いますが、私はベルギービールとともに、ベルギー名物であるワッフルやムール貝をおいしく食べてきました。新型コロナウイルス感染症や円安のせいで海外に行くことが少なくなったかと思いますが、皆さんもぜひ国際学会で発表するついでに、海外を観光してみたいはいかがでしょうか。

(久保田亮 記)

